

ある日私は、ささいなことから娘と口論になってしまいました。ちよつとした言葉足らずから始まったことなのですが、家族もまき込み気まずい空気が流れてしまいました。

これまでも、親子間では照れくさくて何かをしてもらっても当たり前のように思ってしまった、感謝の気持ちなどを素直に伝えてこなかったように思います。

「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「おかえりなさい」などの挨拶が、コミュニケーションのきっかけとして大きな役割を發揮します。挨拶は良い人間関係を築くのにとても大切なものです。子どもの世界でも大人の世界でもコミュニケーションが十分取れていないために、誤解を招くことが多々あるのではないのでしょうか。

そのためにも、初対面の人には「はじめまして です。よろしくお願いします」、人に何かを頼むときには「お願いします」、感謝の気持ちを表すときには「ありがとうございます」などの言葉があると相手との距離感が縮まりますね。

挨拶は相手に対する気遣いでもあり、「あなたの存在を大切に思っていますよ」という意思の表れでもあると思うのです。

「言葉の大切さ」

娘との口論の明くる日、「おはよう！ごめんね。嫌な気持ちにさせたね」と伝えると、「ごめん。私も言い過ぎた」と素直に話ができました。

言葉にしなければ伝わらないことがたくさんあります。何となく伝わっていても言葉にすることでより良い関係になっていくということは、間違いないようです。

毎日の生活の中で、言葉で伝えようとする機会を多く持ち、言葉の大切さや思いやりの気持ちを忘れてはいけないと思います。



*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで